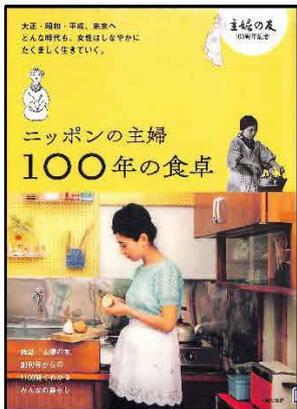




## 『ニッポンの主婦 100年の食卓』

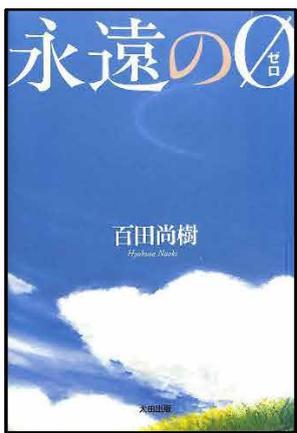
主婦の友社／編 主婦の友社



時代とともに日本の主婦の生活は劇的に変わりました。本書は雑誌『主婦の友』に掲載された大正6年から最終号までの100年分の記事をまとめたものです。家族のために奮闘した主婦の姿が、様々な思い出とともによみがえります。

## 『永遠の0』

百田 尚樹／著 太田出版



家族の為に必ず生きて帰ると誓った青年は特攻隊員になった。そんな祖父の足跡を辿り始めた姉弟に次々と明らかになる無謀な戦争の姿。死の選択と愛が導いた奇跡の結末とは。戦争が永遠に無くなって欲しいと願いを込め、すべての世代に贈りたい作品です。

# 昭和 100 年

西暦二〇二五年は昭和元年（一九二六年十二月二五日）から数えてちょうど一〇〇年目となります。この節目の年に、昭和という時代を振り返って考えてみませんか。

## 『あの日の風景 昭和が遠くなる』

村上 保／著 信濃毎日新聞社



昭和25年生まれの著者が子どもの頃の記憶を辿り、ふるりの風景を描いた切り絵とショートエッセイ集。令和の今ではあまり目にする事のない昭和の面影に触れて、郷愁に浸ってみませんか。のどかな情景に心が安らぐ1冊です。

## 『定価のない本』

門井 慶喜／著 東京創元社



戦後間もない GHQ 占領下の神田神保町。一人の古書店主が大量の本の下敷きになり死亡。事故か他殺か。ミステリー仕立てで昭和の古書業界を描く、本好きにはたまらない1冊。主人公琴岡庄治のモデルは、長岡出身の反町茂雄さん…でしょう。

反町茂雄……古書店主。長岡の図書館に多額の寄付をされた人物

\*本号で紹介した本は、7月～10月まで中央図書一般コーナーに展示しています。ぜひご利用ください！

# セルフ貸出機

を知っていますか？

自分で簡単に本の貸出・延長ができます。ぜひご利用ください！



## セルフ貸出機の使い方

- ① 画面上の「貸出」か「延長」のボタンを指でタッチ



- ② 貸出カードのバーコードをスキャン

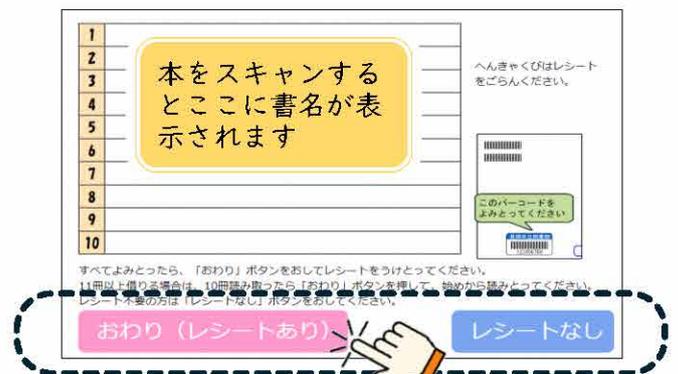


スマートフォンに表示した貸出カード番号のバーコードもスキャンできます

- ③ 本の裏表紙にあるバーコードをスキャン

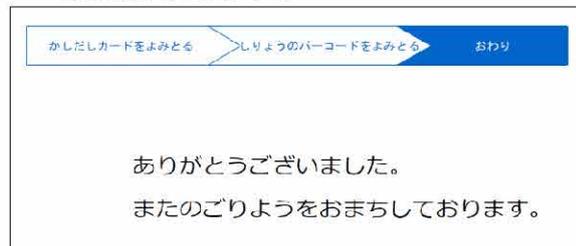


- ④ 画面上の「おわり(レシートあり)」か「レシートなし」を指でタッチ



「おわり(レシートあり)」を選ぶと、借りた本の書名と返却日が書かれた紙が印刷されます。

- ⑤ 最後にこの画面になったことをご確認ください。



11冊以上借りる場合は、この画面が出たあとに  
もう一度①から同じ操作をしてください。

### 以下のお手続きは

#### 貸出窓口で対応します

- 予約した本の貸出
- 貸出カードを忘れた場合
- DVDの貸出

### 延長時の注意点

- 手続き日から2週間延長します。
- 返却期限が過ぎている場合は返却期限日から2週間後となります。
- 予約が入っている本は延長できません。
- 延長は一度しかできません。
- 貸出窓口に来なくても、インターネットから延長手続きができます。

連続テレビ小説  
「あんぱん」のモデル  
となっているやなせ  
たかしさんについて、  
雑誌『月刊MOE』で



『月刊MOE』  
2025年3月号  
白泉社

特集があり、表紙にはやなせさんのにこやかな笑顔の  
写真と「なにが君の しあわせ?」との言葉。「アンパン  
マンのマーチ」の歌詞で有名な言葉ですが、書架に並  
んでいたこの表紙を見たとき、つい足が止まりました。  
はて、自分のしあわせって何だろう?と。皆さん  
も、そんな疑問を持ったときは図書館へどうぞ。疑問  
解決につながる本を発見したり、好きな作家の本を読  
んだり、ゆったり過ごしたり・・・図書館ならではの、小  
さなしあわせを見つけることができます。

図書館では美術館や博物館と連携し、PR展示を  
行っています。県立近代美術館で開催された企画展  
「安野先生のふしぎな学校」では、当館の司書による  
読み聞かせ、移動図書館車「米百俵号」の出張など、  
イベントにも協力しました。人気の絵本作家の作品を

さらに楽しく鑑賞していただき、あわせて図書館の  
利用にもつながればとの思いからです。また、市役  
所各課とのコラボ展示や、小中高校生によるオスス  
メ本とPOP紹介など、さまざまなテーマを設けて展  
示を行っています。利用者の皆さんの新たな発見の  
きっかけになれば幸いです。

最近読んだ本に心に残った一節があります。今後  
も「読書」が必要なのか、という図書館にとって根本  
的な問いに対しての一つの考えです。「読書には知  
られている以上の効果があるが、万能でもなければ  
即効性があるわけでもない。万人が読書習慣を持  
てるわけではないことも分かったし、大人も児童も  
肩の力を抜いて、本を読んだり読まなかったりしよ  
う。でも、時にはどっぷりと読書にハマって、驚くよ  
うな効果を挙げる児童もいる。期待しすぎずに、楽し  
みに待てよう。」(『読書効果の科学』猪原 敬介/著  
京都大学学術出版会) このような大らかな心持ちで、  
しっかりと図書館サービスに取り組んでまいります。

(梅沢 一茂)

## 中央図書館所蔵資料紹介

## No.182 『おくの細道』

### 健脚芭蕉、みちのくをめぐる

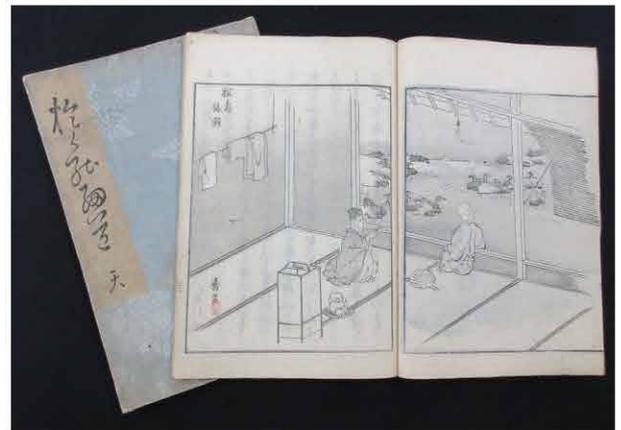
俳諧師・芭蕉(1644～94)は江戸時代前期の元禄  
2年(1689)、門人の曾良とともに奥州を旅し、その  
道のりは2400kmに及びました。150日かけた長旅  
の結晶ともいえる作品が「おくの細道」です。

芭蕉は旅の後、草稿の清書を門人である能書家・  
素庵に頼み、その本を携帯してはさらに推敲を重ねた  
といっています。

古歌を何千首も暗記していたとされる芭蕉は、この  
旅で歌枕(古くから和歌に読み込まれている名所旧  
跡)を訪ね、在りし日の西行や奥州藤原氏などへ思い  
を馳せました。

旅で感じた思いは発句(俳句)に表現されていま  
す。収録数は全50句で、平泉では「夏草や 兵 ども  
が夢の跡」「五月雨の降のこしてや光堂」、立石寺で  
は「閑さや岩にしみ入蝉の声」、越後出雲崎では「荒  
海や佐渡によこたふ 天河」など、名句の宝庫です。

句が詠まれてから300年以上が経過しても色あせ



『おくの細道』文政5年(1822) 東都書林・京都書林

ることはありません。芭蕉の旅の記録であるとともに、  
文芸作品としても長く読み継がれて来ました。

本書は天・地・人の3巻から成りますが、当館所蔵  
は天と地の2巻です。挿絵は画家の交山と香雪の2  
人が奥州旅行をして描いたもので、芭蕉と曾良の旅  
を想像する助けになります。(小熊 よしみ)

俳諧=短詩文芸の一つ。俳諧の連歌という5・7・7の長句と7・  
7の短句を交互に付けていく文芸。この初めの句を発句という。



中央図書館2階講堂  
 入場無料・申込み不要  
 開場：午前9時30分

## 平和を考える映画会

### 「父と暮せば」

7月30日(水)

午前10時～11時40分

2004年/日本 (人間ドラマ・99分)

監督：黒木和雄

出演：宮沢りえ 原田芳雄 ほか

原爆投下から3年後の広島。独り生き残ったことに負い目を感じて苦しむ娘の前に、幽霊となった父親が現れる。父と娘の交流を描いた作品。

## 中央図書館のおはなし会

お申し込みは不要です。  
 年齢制限もありません。  
 みなさんで楽しい時間をお過ごしください。

第4木曜日のチビッコタイムでは、日頃の図書館の利用方法についてもお答えします。お気軽にお越しください。



### おはなし会のスケジュール

火曜日	10:30	★親子お話工作
第2・4水曜日	15:30	★おはなしくるりんぱ
第4木曜日	10:30	チビッコタイム
金曜日	10:30	★おはなしくるりんぱ
第1・2・3土曜日	14:30	★親子お話工作
第4土曜日	14:30	★紙芝居ドン！パラリン
第5土曜日	14:30	★つぐみの会
第1日曜日 ※1月は第2	14:30	★日曜おはなし会

★印はボランティアグループが行います。

## 栃尾美術館は開館30周年!!

### 記念企画展

### 言霊の墨 金澤翔子の世界展

7月25日(金)～9月7日(日)

観覧料：一般/1,000円 高・大学生/500円 中学生以下無料

国際的に活躍するダウン症の書家金澤翔子による作品展。2012年の長岡まつりで揮毫した「長岡大花火」の大作品も展示予定です。



「美しき心」 ©Shoko kanazawa

### 写真展 138億光年 宇宙の旅

9月20日(土)～11月24日(月・振休)

観覧料：一般/1,000円 高・大学生/500円 中学生以下無料

NASA(アメリカ航空宇宙局)の画像を中心に、観測衛星や惑星探査機、宇宙望遠鏡がとらえた天体写真展です。サイエンスとアートの両面をお楽しみください。

美術館ホームページやXでも、展覧会やイベント情報をご案内しています。



### 「図書館の窓から」 発行回数が変わります

図書館でもデジタル化が進み、ホームページで様々なお知らせができるようになりました。昭和57年より図書館通信の役割を担ってきた「図書館の窓から」は、今年度より、7月・11月の年2回の発行となります。これからも「図書館の窓から」を引き続きよろしくお願ひ申し上げます。

